

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000520		
法人名	法人種別: 医療法人	法人名: 医療法人社団北星会	
事業所名	医療法人社団北星会 グループホーム ふあみりあ		
所在地	北海道北見市北3条西3丁目13番地 アスタービル3F・4F・5F		
自己評価作成日	平成27年6月1日	評価結果市町村受理日	平成27年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・日勤者4名、夜勤者2名の勤務体制になっている。 ・入居者の希望により、外出(花見、外食、観光、散歩、美容室、買い物等)をしている。 ・街の中心なので買い物、通院などが便利。 ・スタッフと入居者が家族同様に関わっている。 ・様々なレクリエーションを活用し、入居者同士の交流を深めたり、残存機能の向上を図っている。 ・入居者の誕生日には誕生会を開催しお祝している。 ・家族来所時には最近の様子を話したり、写真をみてもらったり、変化があればその都度説明し、話し合っている。 ・昼食に入居者スタッフ全員で出前を注文したりカップ麺を食べることもある。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000520

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成27年7月14日

北見市中心部の商店街に位置し、ホテルビルの3階、4階、5階を3ユニットのグループホームとして平成15年より開設しています。開設時からの理念「ゆっくり ゆったり ゆるやかに」は常に利用者の立場に立った介護の提供を目指しており、各ユニット玄関に掲示すると共に、ミーティング時に唱和し浸透を図り実践に取り組んでいます。又、毎月発行の事業所便りにも理念及び苦情連絡先を掲載し、家族や地域の方々にも事業所の姿勢を明示し、理解して頂けるように努めています。施設長は日頃から職員に自分や自分の家族が入居したいと思えるグループホームにして行く様にとの考えを伝え、家族的な雰囲気の中で暮らしの実現に繋げています。3ユニットの利点を活かし各ユニット職員配置を日中4名、夜勤2名体制とし、利用者・家族・職員の安心感と心の余裕を得、利用者の希望や要望に即対応出来る様になっています。年間を通じて外出支援に力を入れ、個別の外出支援にも取り組んでいます。職員の資質向上に向け今年度は「NGワード」の取り組みを行い利用者に対し、「だめ」「どこのく」の言葉を使用しない様にと、各ユニットでの自主的な取り組みを促しながら更なる利用者の心を大切にした支援に努めています。内部研修は年間計画を立て毎月ミーティング時に実施しており、内2回は職員が講師を務め意識の向上介護技術の向上を図っています。施設長は年3回職員の個別面接を実施し、就業環境整備に取り組み、利用者、職員が共に笑顔で過ごせる事業所を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 医療法人社団北星会 グループホーム ふあみりあ	入居者が自分らしく安心して生活できる様に支援し、理念である「ゆっくり ゆったり ゆるやかに」を日々忘れずに心がけている。	開設時からの理念を各ユニット玄関に掲示すると共に、毎月のミーティング時に唱和し浸透を図り実践に努めています。理念は事業所便りに毎回掲載し、事業所としての姿勢を明確にし、利用者・家族・地域住民と共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い時は町内を散歩する事で地域の人達と挨拶をしたり、商店街でおやつを食べたりしており、町内会への参加もしている。	町内会に加入し総会に出席して事業所の理解に繋げています。隣接する商店街の町内会とも、買い物や散歩時に挨拶を交わし交流に努めています。カラオケ等のボランティアの訪問は利用者の楽しみと成っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の出来る役割を持ってもらい、地域の商店街を利用する事により、認知症への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、町内会長、地域包括支援センター、民生委員を含め、運営推進会議において報告や話し合いを行っている。	偶数月の第4金曜日に開催し、状況報告や外出、行事報告等話し合い、意見やアドバイスを運営に活用しています。参加案内及び議事録を全家族に送付し、情報を共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	様々な内容について介護福祉課・社会福祉課・生活保護課などと連絡を取り、協力関係を築く様に取り組んでいる。	市の介護福祉課に毎月事業所便りを届けており、他関係機関とも連携をとりながら相談や情報交換等協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて職員が各自自覚し取り組んでおり、訪問者の目の届く玄関に、身体拘束についての張り紙を貼っている。	年2回内部研修を行い、身体拘束の弊害に付いて学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。今年度は、「NGワード」の取り組みを行い、「だめ」「どこいくの」等の言葉による拘束に注意を払っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への虐待が見過ごされない様に注意を払い防止に努め、管理者や職員は高齢者虐待防止についての研修会等へ参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自が研修会に積極的に参加したり、勉強や資格を取り、活用出来る様に支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には各項目事に十分説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で入居者や家族にさりげなく聞いたり、毎月の通信や玄関等、わかりやすい所に連絡先の記載をしている。	外出や新年会、焼き肉等家族が参加できる行事を設定すると共に、家族の訪問時には声をかけ、状況報告や希望、要望の把握に努め、常日頃から何でも言ってもらえる関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは月一度実施し管理者はその際必ず出席し、職員の意見、意向に耳を傾け提案を聞いている。	月に一度ミーティング、ユニット長会議を開催し、意見提案を聞く機会としています。年3回、昇給や昇格時期に合わせて施設長との個人面談を実施すると共に、日常から意志疎通を心掛け、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はそれぞれの職員の勤務体制を把握し、各自が向上心、意欲を持って働ける様、昇格、昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員水準に合わせた研修などに参加させたり、要望があれば学べる様な職場作りをしている。またスタッフが入居者に対しての声掛けの際、NGワード(だめ・どこ行くの)を設定し発言したスタッフにペナルティを決めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修会や勉強会等に参加し、交流を持ち、意見交換をし、向上して行ける様に努めている。北海道認知症グループホーム協会にも属し、情報共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に継続して要望に応えられる様に多くの情報を聞き、入居後も叶えられる様、また新たな希望にも応えられる様に日々努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係は日常生活において、いつでも要望を聞ける様、日頃より声掛けする事を重視に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いつでも家族と話し合い、日頃の状況に応じて必要であれば医療機関への受診や他施設への対応、紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に暮らし、職員も一緒に調理や裁縫等、日々の中で学び関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にするため、一年を通し出来るだけ色々な行事への参加の呼びかけをする様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人、知人等、本人の希望、要望に応じ電話の取り次ぎや、自由に出入り出来、自室にてもゆっくり、楽しく過ごせる様努めている。	家族の協力のもと、ライフストーリーを作成し、これまでの生活歴を把握する中で、ゆかりの場所や馴染みの人の把握に努め、友人、知人の訪問や馴染みの商店に出掛ける等、これまでの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を大切にし、孤立しない様に声掛けし、意思疎通がし合える様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡出来る体制を整え、来訪(遊びに来たり)出来る様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望を重視し、入浴、食事、外出など問いかけにより自己決定してもらっている。	センター方式のアセスメントを活用し生活歴を把握する中で思いや意向の把握に努めると共に、職員は利用者のペースに合わせながら寄り添い意向や希望を問いかけ、自己決定を尊重した支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を家族、本人に聞き取り、自分史、ライフストーリーを作成し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で日誌、温度板より詳しく報告、連絡、相談し把握出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今必要な介護計画をセンター方式を用いて関係者と協議し作成している。	家族の訪問時にサービス担当者会議を開催しています。訪問できない家族には電話で意向や要望を聞き取り、関係者の意見や、ヒヤリハット等も参考にし、状況に即した介護計画を職員担当制で作成し、半年毎に見直しを図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り帳、日誌、チェック表・ひもときシート等を元に情報を共用し話し合いに努め、職員間で介護計画を見直し、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの希望があれば、遠方から来所される方の宿泊の手配、同じ系列の病院の利用、葬儀の参加の手助け等、その都度状況に応じた対応、支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの意向に応じ、個人の出来る役割を持ってもらい、商店街(スーパー、美容室、薬局等)を利用させて頂き生活している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、玉越病院、本間内科医院などと連携を取りながら、本人及び家族の希望を優先し支援している。	希望するかかりつけ医に受診しており、事業所で付き添い支援しています。受信後は家族に連絡を取り情報共有しています。週1回の訪問看護師により健康管理に努め、緊急時には隣の医療法人の看護師長に助言を求めいち早く対応できるように体制が整っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理は職場内の看護師や往診の先生、看護師と相談したり、助言をもらいながら連携を取り、受診や看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者との情報交換などで安心して治療が受けられる様に支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と話し合い、変化があった場合はすぐに連絡が取れる様、かかりつけ医や職場内の看護師と連携を取り支援に取り組んでいる。ターミナルも行っている。	入居時に重度化や終末期、看取りの説明をし同意書を交わしています。状態に変化が見られた時には家族、利用者とは話し合い、再度同意を得て意向に沿えるように協力医療機関と連携体制を整え支援しています。看取りも行っており内部研修も毎年実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを設置すると共に日頃よりシミュレーションを心掛けている。また職員は消防の救命指導を受けており、半年に一度の実地訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーや消防通報装置の設置や対応マニュアルの設置をし、半年に一度の消防訓練を行い、全職員が避難方法を身につけている。	夜間想定避難訓練を年二回行い、職員は消火栓ホースの使い方、避難の手順を確認しています。自動通報装置、各ユニットにはスプリンクラー、煙探知機・消火栓ホース・消火器が設置されています。停電対策のガスストップも常備されています。	消防を交えての避難訓練を二回の内一回は行い、より一層、消防との連携を深める事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重する様に努め、プライバシーに触れるような会話をする際は耳元や、他入居者のいない所で話す様にしている。	個人情報の取り扱いについては入居時に同意を得ています。プライバシーに関わる物品はイニシャル表示され、脱衣所の棚にはカバーが掛けられ来訪者が見てもわからないようになっています。職員は常に利用者が自己決定できるような言葉掛けを行い支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの希望を優先し、十分に考えられる様に質問型で声掛けし自己決定出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそった生活が出来る支援をしつつ、入居者一人ひとりのライフスタイルを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物へ行ったり、本人の希望により美容室へ行ったりと本人らしい生活が出来る様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に合わせて外食や、誕生日にはケーキ作りなど行っている。入居者と一緒に調理、盛り付け、配膳、後片づけなどを可能な限り行っている。	職員は利用者と一緒にその日のメニューを決め買い物、準備、後片付け等利用者と一緒にしています。出前や外食を取り入れ、誕生会にはケーキを作るなど利用者が楽しく、あきのこない様に工夫しています。法人栄養士の指導を受けバランスのとれた献立になるように心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量は随時チェック、記録し、献立の組み立て、栄養のバランスなど栄養士の指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内に残留物が残らぬ様に声掛けし見守りしつつ、出来ない部分は介護職員が口腔ケアを行い支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時は随時チェック、記録しそれにより一人ひとりの排泄パターンを把握している。	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し、さりげない声掛け誘導でトイレでの排泄支援を行っています。また、衛生用品を工夫する等一人ひとりに合わせた対応で自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便回数、状態をチェック、記録し乳製品、水分摂取、体操などで便秘予防対策をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調の変化に気を付け、入浴前はバイタルチェックを行い、週に最低2回は入浴出来る様に支援し、体調が悪い時は様子を見ながら清拭を行っている。	週2回から3回を基本に身体状況や希望に応じた曜日、時間で入浴できるように支援を行っています。職員は気持ちよく入浴できるよう心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類は個々が使い慣れた物を使用し、安心して快適に休める様な環境作りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報のファイルを作成、管理、把握している。薬の変更、追加があればその都度ファイルを整理し、最新の情報をスタッフへ申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、裁縫など個々の残存能力を活かせる様、日常生活の中での役割を担ってもらっている。またレクリエーションを行い、張り合いや喜び、気分転換になる様に心掛け他者との交流も深めて頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調を考慮しながら外出チェック表(日光表)にそって買い物、散歩など20分以上の外出をする様に努めている。また季節ごとの地域イベントやドライブなどの外出をしている。	近所に散歩に出掛けたり、馴染みの店に買い物に行く等、外出チェック表(日光表)に沿って20分以上外出するように支援しています。月二回は季節に合わせてドライブや花見に出掛け利用者の楽しみや気分転換に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人の希望を取り入れ支援しており、本人管理の際は小遣い帳を職員と共有している。また全入居者の小遣い帳は月に一度コピーし家族に郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望のもと電話をかけられる様に支援したり、手紙やハガキなどは希望にそって代読している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな温かみを感じる木目調を使用し、家庭的な雰囲気を保っている。温度や湿度にも注意し、四季をモチーフにした小物や飾り付けなどで居心地の良い環境を作る様努めている。	共用空間は木目調で温度、湿度など快適に管理されています。ゆったりと寛げるようソファが配置され、貼り絵・植物・利用者の写真等が飾られ、居心地良く落ち着ける家庭的な雰囲気になっています。利用者の状況に合わせて家具の配置換えも行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲む様にソファを配置し、他者とのコミュニケーションを深め合ったり、一人の時間が持てる様にキッチン横に椅子を置き、個々が自由に過ごせる様な家具の配置を心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合い、本人の使い慣れた好みの物を取り入れ、快適に過ごせる環境作りをしている。また状態に合わせて人感センサーを設置し、転倒防止に努めている。	利用者が普段使い慣れた布団、ベット・タンス・仏壇・植物・のれん等様々な馴染みの物を持ってきており、自分らしく過ごせる様に支援しています。全室防火カーテンが設置され、利用者の状態に合わせて転倒防止の為に人感センサーを見えない場所に設置し安全に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置し、車椅子が使用出来る広さを確保し、自立支援を目指した環境作りを行っている。		